

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第49号(2011 3 31)
事務局川西地区自主防災会

丸亀市立城辰小学校における防災教育

丸亀市立城辰小学校 校長 藤田 東秀

「いつ」「どこで」「誰が」災害に遭遇するのか、誰にもわかりません。科学技術が進歩し、ある程度の予知はできると思いますが、完全に防ぐことはできないと思います。

そこで、「いつ」「どこで」「誰が」災害に遭遇しても、被害を最小限にするために防災教育に取り組んでいます。

城辰小学校における防災教育は、「災害を防ぐ」「災害に備える」教育だと考えています。「災害を防ぐ」ための教育とは、いろいろな災害に対する情報や、いろいろな災害を防ぐための知識を習得する学習であり、「災害に備える」ための教育とは、災害が起きたときの対応ができるようにする実践的・体験的な活動だと考えています。

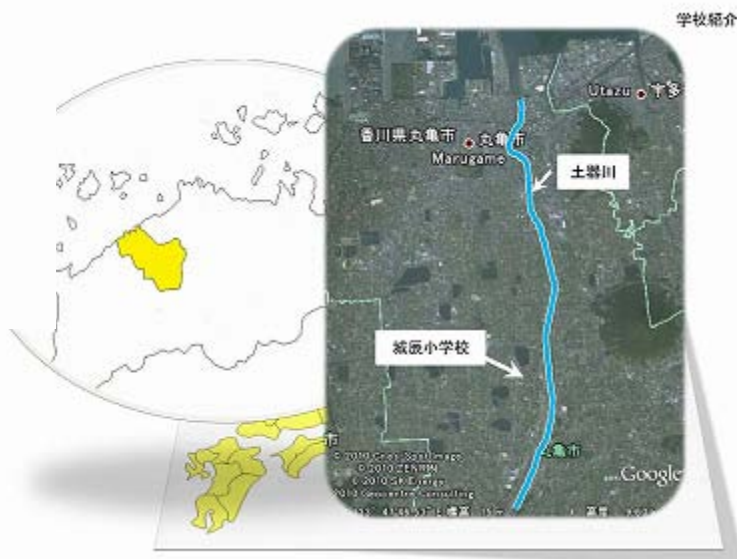
この学習と活動を通して、子どもたちに危険を察知する力や危険を回避する力を「防災の総合的な能力」として体得させたい。

そして、防災教育の目標である「自分の命を守るために自分で考え判断し行動することができる」また、将来、社会の一員として「命を大切にする安全な社会づくりに参加することができる人間」を育成することを目指しています。

今年度の取り組みを、1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」に応募しました。子どもたち4名で発表した原稿です。ご一読いただき、ご指導のほどよろしくお願ひします。

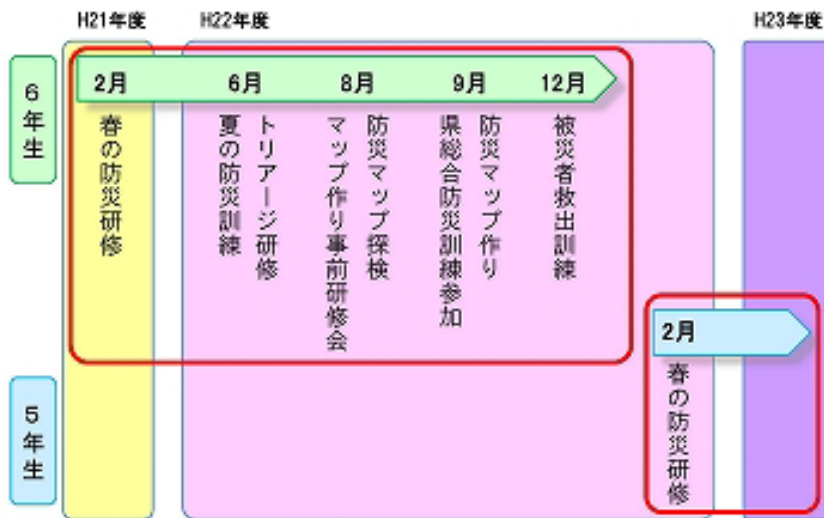
城辰小学校の防災研修

香川県 丸亀市立城辰小学校
6年 大嶋 利奈
6年 高木 奏磨
6年 長峯 友紀
6年 山地 真帆



学校紹介

城原小学校では、5年生の2月から6年生の12月までの10ヶ月の間に、下のよう
な防災研修を行います。そして、それが毎年繰り返されます。



防災研修の様子



トリアージ訓練

トリアージについて

・ Q1 トリアージとは？

A1 地震などの災害時に、けがの様子などを判定して、治療や病院への搬送の優先順位を決めること

Q2 どうしてトリアージが必要なの？

A2 災害時には、短い時間にたくさんの方がけがをします。しかし、病院の数にも、医師の数にも限りがあり、全てのけが人の手当てをすることはできません。一人でも多くの命を救うために、手当てをしたり病院に運ぶ順番を決めるのです。

• Q3 トリアージはどのように行うの？

A3 意識の有無、脈拍、呼吸、けがの状況などを、専門的知識を持った医師が総合的に行い、優先順位毎に4つに色分けします。

• Q4 4つの色と順序は？

A4 優先順位と色は次のように決められています。

- | 順位 | 識別色 | 状態 |
|-----|--------|-----------------|
| 第1位 | 赤(I) | 直ちに処置が必要なもの |
| 第2位 | 黄(II) | 多少遅れても命に危険がないもの |
| 第3位 | 緑(III) | さらに軽い程度のもの |
| 第4位 | 黒(IV) | 死亡または救命不可能なもの |

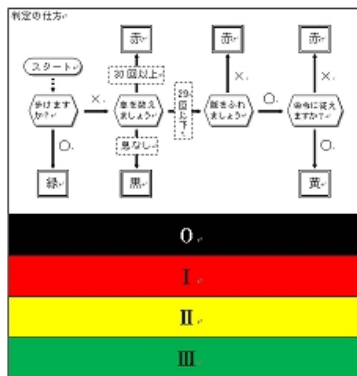
• Q5 なぜ小学生がトリアージ訓練を行うの？

A5 専門的な知識を持った医師でさえ難しいと言われるトリアージ。私たち小学生にとって難しいのは当然です。しかし、災害が起こった時に、すぐにたくさんの医師が、私たちの所に来てくれるでしょうか？

医師が来るまでに、私たちがができること、命を救うための方法があることを知っておくことは、むだではありません。今すぐ使うことはなくても(ずっとないほうがいいのですが...)、大人になった時に役立つかもしれません。

今回の訓練で使うトリアージ・タグは、小学生でもトリアージが可能のように改良されています。

• 小学生でも使えるトリアージタグ



防災研修を振り返って

土のう作り、AED訓練など、どの訓練も自分のためになりました。災害が起こったときたくさんの人が負傷するので、トリアージをして治療などの順番をつけるのは大切だと思いました。

これまで、災害に対する危機感があまりありませんでしたが、訓練を行ってから、自分の家の周りは大丈夫なのか？と探してみたり、家で防災セットを用意をしたりするなど、災害に対する危機感をもつようになりました。

学校や家で、地震などの災害が起きたときに、どのような対応をすればよいか分かったり、地震の時にはどこに集合するかを家族で話し合ったりするなど、災害にそなえることができるようになりました。

今までの訓練を通して、一番に思ったことは「協力」です。とても大切なことだと思いました。もしも災害などが起きたときなどには、みんなと協力して助け合いたいと思うし、自分が中心となって行動できるようになりたいです。

離任のごあいさつ

元 香川県防災局危機管理課長 木村清貴

平成23年東北地方太平洋沖地震により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

マグニチュード9.0という、史上最大のエネルギーを観測した地震・津波の猛威はすさまじく、想定をはるかに超える被害をもたらしました。

県では、国をはじめ、市町や関係機関と連携し、全力を挙げて被災地への支援に努めているところです。

このような中、この度の人事異動で危機管理課を離れることになりました。

平成21年4月に危機管理課長に就任して以来、皆様方には大変お世話になりました。

皆様方のご尽力により、自主防災組織が主体性を持って、防災訓練を行う場面も増えてきているのではないかと頼もしく感じており、香川県の地域防災力が着実に高まっていると感謝しております。

協議会の今後ますますの御発展と皆様方の御健勝、御活躍をお祈りいたします。

何とすさまじい大地震よ！

かがわ自主ぼう代表世話人 岩崎正朔

はじめに、この度の東北地方太平洋沖地震におきまして、犠牲となられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました皆様方に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

3月11日午後3時すぎ、12日から開催予定の「第19回川西ふれあいまつり」の設営準備中、丸亀市危機管理課の滝川さんから「大きな地震が発生しているようです、

テレビを見て下さい」とのことでコミュニティセンターのテレビスイッチ on しますと、画面に写された津波の状況、海外映画を見ているかのごとく、大きな船も大型のタンクローリもまるでオモチャのごとく、流し飛ばされておりました。

しかし、不思議なことに津波の高さは4 mとか6 mとかいう数字で放送されておりましたが、この時すでに10 mとか15 mを超える高さで、ものすごいエネルギーをもって東北地方を襲っていたわけです。夜はあちらこちらで大火災が発生して、まさに地獄そのものでした。翌日テレビをみると、街並みがなくなっていたり、商店街の中に消防車を含め、多くの車が無残な格好で残骸を見せておりました。又ビルの屋上に船が乗りかかってもおりました。

この4~5年出前研修などで地震と津波の恐ろしさを訴えてきましたが、私が描いているものをはるかに超えるすさまじいものでした。

さて、讃岐平野には多くの「ため池」が存在していますが、満水状態のとき、大規模地震が発生して、堤防が損傷して一気に流れ出す水量は、陸地における津波ではないかと想定されます。

とにかく、人間の想定能力を超える自然の猛威から脱して安全・安心を確保するには、

- ①目的を明確にした「避難訓練」「救出・救護訓練」を、計画的に継続実施する。
- ②備蓄は、地域の行事にからめて、経費を運用しながら、必要な備蓄量を確保する。
- ③資機材整備は、5ヵ年、10ヵ年計画を策定。地域の関係者にコンセンサスを得て、地道にかつ、継続して実施する。

以上3点について実行することが、近い将来同じような規模を考えられる東南海・南海地震発生への備えになるであろうと思う。

編集後記

今月は人事異動によって平素からご指導賜っておりました、防災局の幹部の皆さんが転出されました。又、4年間防災研修でお世話になりました城辰小学校の藤田校長先生が退職されました。皆様の今後ますますのご活躍とご健勝をお祈りします。

川西地区自主防災会は、4月2日宮城県石巻市の避難所支援に出発することになりました。日頃の訓練をいかして頑張ってきます。